

# 古賀市走ろう会々報

1977年5月1日(結成) 2021年8月27日(533号)

**会長談話** 暑い日や雨降りが続いています、新型コロナはデルタ株のせいで再度福岡県にも緊急事態宣言が出され、古賀市も感染者が増加し、コロナ感染の収拾にはまだ遠い状況です。コロナワクチン接種も進んでいますが、これまで通り継続して気を抜かず充分注意しながら行動しましょう。日曜日の朝練習、土曜日のLSD、山登り等の参加をお願いいたします。8/7の土曜日にタイムアタック10KMにチャレンジしました、古賀中周りを5周走りました。豊原さん、平松さ



タイムアタック (10Km)



八女市 釈迦岳 登山同好会



宮地嶽神社土曜ラン



雨の日曜デートラン



麦の香り (パン屋) 土曜ラン



左同

ん、有山さんと大坪さんにもお付き合いいただきありがとうございました。タイムは0:58:17と1時間切れましたので自分としては満足?しました。東京オリンピックの男子マラソン女子マラソン共にあの暑い中日本選手の活躍に元気をもらいました。入賞できて良かったですね。図書館から借りた、五木寛之の本「元気に下山」に人生100年時代を生きるで、①風向きを感じながら、今日は西へ、明日は東へとフワフワと漂っていく。昨日言ったことと今日言うことが違っていい。②その努力が報われるかどうかということではなく、やりたいからやる。ただそれだけのことです。と書いてありました、良いですね自分にぴったりとはまりました。また新聞にて和敬清寂という千利休の茶道の神髄となる精神が掲載されていました。互いに勧め合う、身分に関係なく尊敬し合う、清らかな気持ちを持つ、そして動じない。目指したい和の心ですね。新型コロナウイルスに負けずにMTH(無理せず、楽しく、走りましょう)で行きましょう。

**寄稿一将棋についてのあれこれ** 走ろう会の会報に将棋のことを書くのは気が引けますが、題材は何でもいいとのことなので甘えて書かせていただきます。少し調べて間違いのないように書こうと思います。硬い内容・文章になるかと思いますが、興味のある所だけ読んでください。まずは、将棋の歴史から。起源は、古代インドという説が最有力で中国・韓国から日本に伝わって来ました。日本では、平安時代、奈良県の興福寺境内から発掘された駒が最古。約400年前、1612年、徳川幕府は将棋の大橋宗桂、囲碁の加納算砂

らに俸禄を支給し、家元として将棋所・碁所を唱えるようになりました。八代将軍吉宗は、1716年に将軍の御前で指す「お城将棋」を年に一度、11月17日に行うことを制度化しました。現在、日本将棋連盟はこの日を「将棋の日」と定め、各地でイベントを開催しています。徳川幕府が倒れて明治・大正時代になると第十三世関根名人や映画等でも有名な坂田三吉が出て、新聞の棋戦主催が始まります。この時代の将棋界の最高位は名人で、名人位は終身制でした。だから、ひとたび名人になると他に強い人が出てきても名人が亡くならない限り、名人になれませんでした。この約300年続いた終身名人位制度は、関根名人の大英断で実力名人戦に変わります。実力名人戦の開始は、1935年、昭和10年で東京日日新聞等が主催しました。そして最初の実力名人は、第十四世名人木村義雄。ここで将棋の棋士になる過程を説明します。棋士になるためには養成機関の奨励会に入らなければなりません。棋士の推薦を受け奨励会の受験をしますが、合格する人は受験者の1~2割。奨励会に入会すると6級になり、対局を重ねます。三段になると年2回行われる三段リーグに参加でき、上位2名が四段になれ、正式な棋士となります。奨励会には年齢制限があり、受験は満15歳以下、満21歳までに初段、満26歳までに四段にならないと強制的に退会しなければならないという大変厳しい規定があります。奨励会を受験して棋士になれるのは一人か二人ということです。このプロセスを経たプロ棋士は現在約200名で、全員が男性です。女性のプロ棋士もいますが、女性のみで構成された女流棋士という制度があります。名人戦リーグで棋士はAクラス、Bクラス、Cクラスと格付けされています。プロ四段になるとC2組に入り、一年間戦って上位に入ると翌年はC1組に入り、また一年間戦います。こうして毎年勝ち上がってB2組、B1組と上がりAクラス10人の中に入ってその中で1番になると名人に挑戦出来ます。だからいくら強くても名人に挑戦できるのは、毎年上のクラスに昇

格して5年かかります。現在の渡辺名人は今年名人位を防衛して現在2期ですが、名人位を5期獲得した棋士は、引退すると永世名人の称号を名乗れません。15世名人が大山康晴、16世中原誠、17世谷川浩司、18世森内俊之、19世羽生善治で実力名人制になって6人しか永世名人はいません。将棋には、将棋の神様がいてその神様から好かれないと名人になれないと言われるほどです。神武以来の天才と言われたあの加藤一二三も名人位1期、大山のライバルの升田幸三が2期、米長邦雄が1期等。約10年に一人の割合で大天才が出て来て、タイトルを独占します。この大天才の系譜は、私見ですが、羽生の次が現名人の渡辺、その次が現竜王の豊島、その次が藤井聡太です。豊島・藤井は、これから活躍する人ですから今後の活躍度はまだわかりませんが、将棋愛好家にとって目が離せないところです。(有山伸司)

**給水ポイント** 宮本輝さんの短編に、筆筒の後ろにいたトカゲがあやまって板とともに釘で打ち抜かれ、数年後の引っ越しの際に生きてままで発見されます。(なんとその間連れ合いが餌を運び続けていたことがわかりました。) 作者は悩んだ末釘を抜いてやります。すると出血で死んでしまうかもしれないという予想に反してよたよたと歩くトカゲを見ながら「自分にも少々の荒療治でも思い切って抜かなければならない太い釘があるのかもしれない。」と心が動く場面があります。パラリンピックの度肝を抜かれるパフォーマンスを見ていて、障害をお持ちの方々に対する理解が深まるとかユニバーサルな社会ができるとかが完全にぶっ飛びました。太い釘を抜かなければならないのはこちらの方で心が揺さぶられ本当に引き付けられて見入ってしまうのです。言葉を選びたいのですがどの言葉でも足りません。只々ありがとうと拍手を送りたい、ありがとうと拍手を送り続けたいです。(池田美佳)

**編集後記** 今月は3名の記事を載せたので、ホント楽でした。私が書くのはこの編集後記のみです。これに味を占めると来月もお願いしたいものです。パラリンピックもコロナのせいでもう一つ盛り上がりには欠けませんが、注油!

**会員大募集** 一緒に走る健康な仲間を募集しています。  
日曜日 朝6時30分市役所前広場でお待ちしています。  
年会費：3,000円 会員数：65名(男性55名 女性10名)  
年齢10代~70代 創部以来42年

**編集委員：平松 實**  
**池田美佳**  
**発行所：古賀市走ろう会**

**Eメール** [gudou@taj.bbiq.jp](mailto:gudou@taj.bbiq.jp)  
文中で、敬称は、略しています。悪しからずご了承ください。